

アガペーに会う（第5回）「洗礼という選び——神の家族として生きる」

コロサイの信徒への手紙 2 章 12 節

あなたがたは、洗礼によってキリストと共に葬られ、キリストを死者の中から復活させた神の力を信じて、キリストと共に復活させられたのです。

ローマの信徒への手紙 6 章 4 節

私たちは、洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかる者となりました。それは、キリストが父の栄光によって死者の中から復活させられたように、私たちも新しい命に生きるためです。

「アガペーに会う」シリーズでの、これまでの4回のメッセージで、アガペー——すなわち無条件の愛に触れたとき、人の心がどう癒され、関係がどう変えられていくかをご一緒に味わってきました。今日は、その歩みの中で大切な節目となる「洗礼」について、一緒に考えてまいりましょう。

洗礼とは何か——それは、ただの儀式や通過点ではありません。

あなたがたは、洗礼によってキリストと共に葬られ、キリストを死者の中から復活させた神の力を信じて、キリストと共に復活させられたのです。（コロサイ 2:12）

洗礼とは、“古い自分”に別れを告げる行為です。人は生まれ、社会の一員となったその日から、誰かから受ける「条件付きの愛」や「棘のあることば」によって、縛られ、苦しみ始めます。それは、ほとんどの場合、家庭の中で最初に味わうこととなりますが、幼稚園や学校で多くの人と関わるようになると、その影響は拡大していきます。そして、その連鎖反応として、今度は自分がされたように他人を裁き、「条件付きの愛」でもって接するということをしてしまう。アガペーと出会うまで、私たちは「無条件の愛」というものを自分の内に持っていなかったのです。「アガペーの不在」——私はこのシリーズの中で、「罪」というものの実態をそのような表現に置き換えて説明してまいりました。しかし、私たちは聖書のことばの中に「アガペーなる神様」を見出すことができます。この方と出会い、自分が置かれてきた環境に何らかの不整合（歪み）があったこと、そして、自分の他者との関わりの中にも不整合の影が及んでいたことに初めて気づくことができるのです。そして、本来こうであつたかもしれない自分——アガペーに捉えられ、神と共に歩んでいたはずの自分——に生まれ変わりたいと切望する。従来の生き方に別れを告げるため、水の中で一度“死んで”、新しいいのちを受けて“よみがえる”——それが、洗礼式の意味することです。

私たちは、洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかる者となりました。それは、キリストが父の栄光によって死者の中から復活させられたように、私たちも新しい命に生きるためです。（ローマ 6:4）

「新しい命に生きる」——これこそが、洗礼の本質です。

6月に二人の方の洗礼式を執り行ないました。皆様に見守られながら、浸礼と滴礼の両方のスタイルで挙式しましたが、年齢や健康上の理由で様式は柔軟に対応しつつも、儀式そのものに込められた意味は変わることがありません。それは、「古い自分が死に、新しい人によみがえる」ということです。このことを、本説教では、「条件付きの愛と共に生きてきた自分に別れを告げ、無条件の愛と共に生き始める」と言い換えてみたい。こうも言い換えることができるでしょう。「アガペーなる神を知らずに生きてきた自分に別れを告げ、自分を100パーセント受け入れてくださる神と共に歩み始める」と。そして、その神はイエス・キリストにおいてその本質が明らかにされたのですから、イエスを心に受け入れるということが、神と共に歩み始める第一歩を意味するのです。

ある人はこう言うかもしれません。信仰を持つとは、心の中での変化であるから、形式的な洗礼を受けても受けなくても関係ないと。確かに、アガペーなる神様を受け入れることは、私たちの心の中で起きる出来事です。しかし、それが人の前でことばとして表現され、形として表されることによって、初めて客観的な意味を持つようになるのです。

このことは、結婚を例に挙げてみると分かりやすくなります。ある二人のカップルが交際していて、一生相手のことを大切にしようとお互い心の中で思っています。しかし、そのことが「雰囲気に分かるでしょう」「そう思ってるに決まってるでしょう」という「思い」だけでは相手に確信を与えてあげることはできません。明確にことばにすること、プロポーズをすること、それに応答すること、結婚という契約関係に入ることを通して、その「思い」は「事実」となるのです。

洗礼を受けることも同様で、私たちが心で信じたことを明らかにする——それは、自分が信じた神様に対して果たすべき責任であり、自分はキリスト者になったということを公に証言することなのです。自分は新しいいのちを受け、神と共に歩み始めた、と。

ですが、誤解しないでいただきたいのは、「新しい命を受ける＝完璧になる」という意味ではないということです。洗礼を受けたら瞬間に清くなる、過ちを犯さなくなる——そういう魔法のようなことではありません。むしろ、洗礼とは「これからも失敗をすることがあるけれど、それでも神の愛に生きることを選びます」という、**信頼の告白**なのです。迷いながらも、失敗しながらでも、神の手を離さずに生きていくという、静かで力強い決意です。アガペーなる神様は、欠けのある私たちをそのままの姿で受け入れてくださいました。その無条件の受容は、私たちの存在そのものを受け入れてくれている愛ですから、私たちのどんな失敗をも赦し聖めてくださる余地が残されているのです。

これは、「それなら何をしてよい」ということが言われているわけではありません。私たちをつまづかせるものは、長年に亘って私たちの人格を形成してきた「条件付きの愛」であり、その名残が私たちをしつこく「不整合」へと導こうとするのです。アガペーに捉えられた人は、その「不整合」に気づき、自分の今回の行ないはアガペーに基づくものではなかつ

たと認め、悔い改め、次は新しい生き方を選び取っていこうという決意へと導かれる。アガペーが心に宿っている人は、そのようにしなが新しく新しく造り変えられていくのです。

もう一つ、私たちが洗礼によって受ける恵みは、**神の家族**に迎え入れられることです。つまり、新しい「所属」が与えられるのです。この世界では、なかなか「そのままの自分になれる場所」がありません。失敗が赦されなかったり、ありのままの自分が受け入れてもらえなかったり、常に誰かからの「裁き」の視線が向けられています。しかし、神の家族の中では、弱さも傷もすべてを知ったうえで、「あなたはここにいていい」と言ってもらえる。教会は、完全な人の集まりではありません。でも、**完全な愛を求めて集まった人たちの居場所**です。私は牧会者として、教会がそのような場所として機能し続けることを願っています。月一回このようなメッセージを語ることは、教会が「アガペーに基づく共同体」であることを共に思い出すためです。なぜなら、誰もが社会で傷を受けて生きているからです。受け入れてもらえなかった自分、また失敗してしまった自分、そういう自分がもう一度新しいスタートを切れる場所、それが、週の初めの日の礼拝であります。

「洗礼はゴールではなく、人生の新しいスタートライン」です。それは、アガペーに出会い、アガペーに応答し、アガペーに生きていこうとする、新しい歩みの始まり。あなたが「この愛に生きたい」と願ったとき、神はその願いに静かに応えてくださいます。「わたしはあなたを選んだ。あなたは、わたしのものだ」と。

今回は「共に歩む信仰の旅路」というテーマで、洗礼の先に広がっている、豊かで深い人生について分かち合っていく予定です。今週も、アガペーに答えて歩む日々を大切にしましょう。

【祈り】

天の父なる神様、今日、私たちは「洗礼」という恵みのしるしについて学びました。古い自分に別れを告げ、あなたの無条件の愛に生きる新しい人生へと招かれていることを、感謝いたします。私たちは弱く、失敗することも多い存在です。けれども、あなたはありのままの私たちを受け入れ、「わたしはあなたを選んだ。あなたはわたしのものだ」と語ってください。どうか、この確かな愛に立ち続けることができますように。迷いながらも、失敗しながらも、あなたの手を離さずに歩む信仰をお与えください。また、教会が「神の家族」として、互いの弱さや痛みを受け入れ合い、「あなたはここにいていい」と語り合える場であり続けられるよう、祝福してください。

【祝祷】

仰ぎ願わくは、

「神を知らぬ者」として生まれてくる人間に、アガペーと出会う道を開いてくださった、主イエス・キリストの恵み、

痛みと傷を負うすべての人を、御許へ招いてくださる、父なる神の愛、

アガペーと共に歩むしるしとして、洗礼の恵みにあずかせてくださる、聖霊の親しき交わりが、

ここに集う一人びとりと、その家族と、友人と、この時代を生きるすべての信仰者の上に、
今も後も、代々限りなくありますように。